

平成 30 年度練馬区普通会計決算概要

令和元年 9 月

企画部 財政課

目 次

| | | |
|--------------|-------|----|
| 1 概要 | | 1 |
| 2 歳入の状況 | | 3 |
| 3 歳出の状況(性質別) | | 5 |
| 4 歳出の状況(目的別) | | 7 |
| 5 財政指標 | | 9 |
| 6 今後の財政負担 | | 11 |

1 概 要

練馬区の平成 30 年度普通会計決算は、歳入総額 2,650 億 26 百万円、歳出総額 2,587 億 55 百万円で、平成 29 年度と比較して、歳入が 4.5%、歳出が 5.4%と、ともに増となった。

決算収支は、形式収支において 62 億 70 百万円の黒字となった。形式収支から翌年度に繰り越す財源を差引いた実質収支についても 61 億 20 百万円の黒字となり、前年度より 24.7%の減となった。

また、単年度収支は 20 億 2 百万円の赤字、実質単年度収支についても 47 億 63 百万円の赤字となった。

注：普通会計とは、決算統計上の会計で、各地方公共団体間の相互比較や年度間比較が可能となるよう、総務省の定める基準により、一般会計から重複額等を控除したものである。

| | |
|-----|-------------|
| 第1表 | 平成30年度の決算収支 |
|-----|-------------|

(単位:千円,%)

| | 平成30年度 | 平成29年度 | 増(△)減 | 増減率 |
|-------------------|-------------|-------------|-------------|--------|
| 歳入総額(A) | 265,025,772 | 253,616,423 | 11,409,349 | 4.5 |
| 歳出総額(B) | 258,755,395 | 245,494,251 | 13,261,144 | 5.4 |
| 形式収支 (A)-(B)=(C) | 6,270,377 | 8,122,172 | △ 1,851,795 | △ 22.8 |
| 翌年度に繰り越すべき財源(D) | 150,455 | 0 | 150,455 | 皆増 |
| 実質収支 (C)-(D)=(E) | 6,119,922 | 8,122,172 | △ 2,002,250 | △ 24.7 |
| 単年度収支(F) | △ 2,002,250 | 879,491 | △ 2,881,741 | |
| 積立金(G) | 39,176 | 28,198 | 10,978 | 38.9 |
| 繰上償還金(H) | 0 | 0 | 0 | — |
| 積立金取崩し額(I) | 2,800,000 | 0 | 2,800,000 | 皆増 |
| 実質単年度収支 (F+G+H-I) | △ 4,763,074 | 907,689 | △ 5,670,763 | |

(注) 単年度収支=当該年度の実質収支-前年度の実質収支
 実質単年度収支=単年度収支+財政調整基金積立額+繰上償還額
 -財政調整基金取崩し額

(決算収支の推移)

(単位:千円,%)

| | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|----------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 歳入総額 A | 249,988,640 | 247,177,271 | 262,200,867 | 253,616,423 | 265,025,772 |
| 伸び率 | 8.4 | △ 1.1 | 6.1 | △ 3.3 | 4.5 |
| 歳出総額 B | 245,526,804 | 240,881,568 | 254,958,186 | 245,494,251 | 258,755,395 |
| 伸び率 | 8.8 | △ 1.9 | 5.8 | △ 3.7 | 5.4 |
| 形式収支 A-B=C | 4,461,836 | 6,295,703 | 7,242,681 | 8,122,172 | 6,270,377 |
| 翌年度に繰り越すべき財源 D | 48,365 | 169,519 | 0 | 0 | 150,455 |
| 実質収支 C-D=E | 4,413,471 | 6,126,184 | 7,242,681 | 8,122,172 | 6,119,922 |

2 歳入の状況

歳入の主な内容はつぎのとおりである。

- (1) 一般財源は、前年度比 30 億 88 百万円、1.8%の増となった。
 - ① 歳入の 25.4%を占める特別区税は、15 億 43 百万円、2.3%の増となった。
 - ② 配当割交付金は、1 億 51 百万円、14.1%の減となった。
 - ③ 株式等譲渡所得割交付金は、3 億 22 百万円、30.1%の減となった。
 - ④ 地方消費税交付金は、20 億 76 百万円、14.7%の減となった。
 - ⑤ 地方特例交付金は、63 百万円、16.4%の増となった。
 - ⑥ 歳入の 32.7%を占める特別区財政調整交付金は、39 億 72 百万円、4.8%の増となった。
 - ・ 普通交付金は、38 億 88 百万円、4.9%の増となった。これは基準財政収入額が 3 億 63 百万円、0.5%の増となったが、基準財政需要額についても 42 億 51 百万円、2.8%の増となったことによる。
 - ・ 特別交付金は、84 百万円、3.2%の増となった。
- (2) 特定財源は、前年度比 83 億 21 百万円、9.6%の増となった。
 - ① 分担金及び負担金は、私立保育所入所者負担金(1 億 73 百万円増)等の増により、1 億 70 百万円、9.5%の増となった。
 - ② 使用料は、保育所使用料(33 百万円増)、児童福祉施設使用料(17 百万円増)等の増により、67 百万円、1.6%の増となった。また手数料は、税務事務手数料(6 百万円減)等の減がある一方、廃棄物処理手数料(33 百万円増)等の増により、22 百万円、2.5%の増となった。
 - ③ 国庫支出金は、臨時福祉給付金(16 億 7 百万円皆減)等の減がある一方、保育所運営費負担金(5 億 93 百万円増)、障害者自立支援給付費等負担金(4 億 88 百万円増)、保育給付費(地域型保育事業)(3 億 69 百万円増)等の増により、42 百万円、0.1%の増となった。
 - ④ 都支出金は、都市計画交付金(11 億 29 百万円増)、生産緑地買取り事業(3 億 39 百万円皆増)等の増により、32 億 20 百万円、17.3%の増となった。
 - ⑤ 繰入金は、福祉基金繰入金(15 百万円減)等の減がある一方、財政調整基金繰入金(28 億円皆増)、減債基金繰入金(85 百万円皆増)の増により、28 億 69 百万円、2,809.6%の増となった。
 - ⑥ 繰越金は、純繰越金(4 億 39 百万円増)の増により、4 億 39 百万円、12.1%の増となった。
 - ⑦ 諸収入は、掘削道路復旧費(1 億 27 百万円減)、延滞金(55 百万円減)等の減がある一方、土地開発公社貸付金返還金(13 億 54 百万円増)、特別区競馬組合分配金(1 億円皆増)等の増により、13 億円、43.6%の増となった。
 - ⑧ 特別区債は、石神井東中学校屋内運動場等改築(6 億 99 百万円皆減)、南田中小学校拡張用地(5 億 20 百万円皆減)等の減がある一方、大泉西中学校校舎等改築(6 億 80 百万円皆増)、石神井小学校校舎等改築(5 億 85 百万円皆増)等の増により、5 億 48 百万円、11.0%の増となった。

以上の各歳入増減の結果、歳入総額に占める一般財源の割合は、前年度より 1.7 ポイント減少して 64.2%、特定財源の割合は、前年度より 1.7 ポイント増加して 35.8%となった。

第2表

歳入内訳

(単位:千円、%)

| | 平成30年度 | | 平成29年度 | | 対前年度比較 | |
|-------------|-------------|-------|-------------|-------|-------------|---------|
| | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 増減率 |
| 歳入総額 | 265,025,772 | 100.0 | 253,616,423 | 100.0 | 11,409,349 | 4.5 |
| 一般財源 | 170,125,767 | 64.2 | 167,037,698 | 65.9 | 3,088,069 | 1.8 |
| 特別区税 | 67,357,129 | 25.4 | 65,813,977 | 26.0 | 1,543,152 | 2.3 |
| うち特別区民税 | 63,604,624 | 24.0 | 62,062,402 | 24.5 | 1,542,222 | 2.5 |
| 地方譲与税 | 1,011,631 | 0.4 | 997,498 | 0.4 | 14,133 | 1.4 |
| 利子割交付金 | 275,634 | 0.1 | 259,544 | 0.1 | 16,090 | 6.2 |
| 配当割交付金 | 918,379 | 0.3 | 1,068,991 | 0.4 | △ 150,612 | △ 14.1 |
| 株式等譲渡所得割交付金 | 749,403 | 0.3 | 1,071,384 | 0.4 | △ 321,981 | △ 30.1 |
| 地方消費税交付金 | 12,060,686 | 4.6 | 14,136,989 | 5.6 | △ 2,076,303 | △ 14.7 |
| 自動車取得税交付金 | 601,156 | 0.2 | 570,259 | 0.2 | 30,897 | 5.4 |
| 地方特例交付金 | 447,653 | 0.2 | 384,528 | 0.2 | 63,125 | 16.4 |
| 特別区財政調整交付金 | 86,639,139 | 32.7 | 82,667,408 | 32.6 | 3,971,731 | 4.8 |
| 普通交付金 | 83,960,662 | 31.7 | 80,072,528 | 31.6 | 3,888,134 | 4.9 |
| 特別交付金 | 2,678,477 | 1.0 | 2,594,880 | 1.0 | 83,597 | 3.2 |
| 交通安全対策特別交付金 | 64,957 | 0.0 | 67,120 | 0.0 | △ 2,163 | △ 3.2 |
| 特定財源 | 94,900,005 | 35.8 | 86,578,725 | 34.1 | 8,321,280 | 9.6 |
| 分担金及び負担金 | 1,945,017 | 0.7 | 1,775,481 | 0.7 | 169,536 | 9.5 |
| 使用料 | 4,317,602 | 1.6 | 4,250,434 | 1.7 | 67,168 | 1.6 |
| 手数料 | 896,285 | 0.3 | 874,625 | 0.3 | 21,660 | 2.5 |
| 国庫支出金 | 48,512,679 | 18.3 | 48,470,889 | 19.1 | 41,790 | 0.1 |
| 都支出金 | 21,811,781 | 8.2 | 18,591,560 | 7.3 | 3,220,221 | 17.3 |
| 財産収入 | 385,821 | 0.1 | 724,837 | 0.3 | △ 339,016 | △ 46.8 |
| 寄付金 | 210,552 | 0.1 | 226,734 | 0.1 | △ 16,182 | △ 7.1 |
| 繰入金 | 2,971,112 | 1.1 | 102,114 | 0.0 | 2,868,998 | 2,809.6 |
| 繰越金 | 4,060,172 | 1.5 | 3,620,681 | 1.4 | 439,491 | 12.1 |
| 諸収入 | 4,282,484 | 1.6 | 2,982,370 | 1.2 | 1,300,114 | 43.6 |
| 特別区債 | 5,506,500 | 2.1 | 4,959,000 | 2.0 | 547,500 | 11.0 |

※構成比について、四捨五入をしているため、各項目を足しあげても合計額と一致しないことがある。

3 歳出の状況(性質別)

歳出を性質別に見た主な内容は、つぎのとおりである。

- (1) 義務的経費は、16億65百万円、1.2%の増となり、歳出総額に占める割合は54.9%となった。
 - ① 人件費は、地方公務員共済組合負担金(2億12百万円減)等の減がある一方、退職金(3億92百万円増)、委員等報酬(1億56百万円増)等の増により、4億6百万円、1.0%の増となったが、構成比は前年度を0.7ポイント下回る16.4%となった。
 - ② 扶助費は、臨時福祉給付金(10億28百万円皆減)等の減がある一方、私立保育所運営経費(16億円増)、地域型保育事業運営経費(7億9百万円増)等の増より、12億55百万円、1.3%の増となったが、構成比は前年度を1.4ポイント下回る36.5%となった。
 - ③ 公債費は、利子(40百万円減)の減がある一方、減債基金相当分(24百万円増)、元金(20百万円増)の増により、4百万円、0.1%の増となったが、構成比は前年度を0.2ポイント下回る2.0%となった。
- (2) 投資的経費は、学校施設整備費(小学校)(27億68百万円増)、公園新設改修費(26億16百万円増)、私立保育所開設準備費補助(7億95百万円増)、交通安全施設整備費(7億50百万円増)等の増により、84億18百万円、41.4%の増となり、歳出総額に占める割合は11.1%となった。
- (3) その他の経費は、31億78百万円、3.7%の増となり、歳出総額に占める割合は34.0%となった。
 - ① 物件費は、ねりっこクラブ運営業務委託料(2億37百万円増)、ひとり暮らし高齢者等訪問支援事業(2億23百万円増)等の増により、8億15百万円、2.1%の増となった。
 - ② 補助費等は、保育従事職員宿舍借り上げ支援事業費補助金(2億4百万円増)、保育士等キャリアアップ補助金(1億32百万円増)、私立保育所開設後経費補助(1億14百万円増)等の増により、10億11百万円、7.3%の増となった。
 - ③ 積立金は、大江戸線延伸推進基金積立金(2億97百万円減)等の減がある一方、施設整備基金積立金(10億9百万円増)、福祉基金積立金(1億57百万円増)等の増により、7億61百万円、17.6%の増となった。
 - ④ 貸付金は、女性福祉資金貸付金(4百万円減)、応急小口資金貸付金(2百万円減)等の減がある一方、土地開発公社貸付金(2億14百万円増)の増により、1億90百万円、13.5%の増となった。
 - ⑤ 繰出金は、国民健康保険事業会計繰出金(2億37百万円減)、介護保険会計繰出金(15百万円減)等の減がある一方、後期高齢者医療会計繰出金(4億19百万円増)等の増により、1億72百万円、0.8%の増となった。

第3表

性質別歳出内訳

(単位:千円、%)

| | 平成30年度 | | 平成29年度 | | 対前年度比較 | |
|----------|-------------|-------|-------------|-------|------------|------|
| | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 増減率 |
| 歳出総額 | 258,755,395 | 100.0 | 245,494,251 | 100.0 | 13,261,144 | 5.4 |
| 義務的経費 | 141,955,033 | 54.9 | 140,289,678 | 57.1 | 1,665,355 | 1.2 |
| 人件費 | 42,308,680 | 16.4 | 41,902,213 | 17.1 | 406,467 | 1.0 |
| うち職員給 | 29,181,514 | 11.3 | 29,112,392 | 11.9 | 69,122 | 0.2 |
| 扶助費 | 94,355,092 | 36.5 | 93,100,338 | 37.9 | 1,254,754 | 1.3 |
| 公債費 | 5,291,261 | 2.0 | 5,287,127 | 2.2 | 4,134 | 0.1 |
| 投資的経費 | 28,754,084 | 11.1 | 20,335,872 | 8.3 | 8,418,212 | 41.4 |
| 普通建設事業費 | 28,754,084 | 11.1 | 20,335,872 | 8.3 | 8,418,212 | 41.4 |
| うち用地取得費 | 5,223,540 | 2.0 | 4,063,908 | 1.7 | 1,159,632 | 28.5 |
| 災害復旧事業費 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| 失業対策事業費 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| その他の経費 | 88,046,278 | 34.0 | 84,868,701 | 34.6 | 3,177,577 | 3.7 |
| 物件費 | 40,501,100 | 15.7 | 39,685,655 | 16.2 | 815,445 | 2.1 |
| 維持補修費 | 3,042,745 | 1.2 | 2,815,145 | 1.1 | 227,600 | 8.1 |
| 補助費等 | 14,799,768 | 5.7 | 13,788,663 | 5.6 | 1,011,105 | 7.3 |
| 積立金 | 5,090,001 | 2.0 | 4,328,673 | 1.8 | 761,328 | 17.6 |
| 投資及び出資金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |
| 貸付金 | 1,598,750 | 0.6 | 1,408,393 | 0.6 | 190,357 | 13.5 |
| 繰出金 | 23,013,914 | 8.9 | 22,842,172 | 9.3 | 171,742 | 0.8 |
| 前年度繰上充用金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | - |

※構成比について、四捨五入をしているため、各項目を足し挙げても合計額と一致しないことがある。

4 歳出の状況(目的別)

目的別歳出は、構成比順に、民生費、教育費、土木費、総務費、衛生費となった。また、この5費目の歳出合計は2,476億42百万円となり、構成比全体の95.7%を占めている。目的別歳出の主な内容は、つぎのとおりである。

- (1) 民生費は、臨時福祉給付金(10億28百万円皆減)等の減がある一方、私立保育所運営経費(16億円増)、私立保育所等開設準備補助(8億41百万円増)、地域型保育事業運営経費(7億9百万円増)等の増により、38億5百万円、2.6%の増となった。
- (2) 教育費は、少年自然の家改修経費(1億21百万円減)、学校施設整備費(中学校)(1億20百万円減)等の減がある一方、学校施設整備費(小学校)(27億68百万円増)、体育館等改修経費(4億43百万円増)、私立幼稚園預かり保育運営費補助(1億5百万円増)等の増により、32億54百万円、10.0%の増となった。
- (3) 土木費は、公園新設改修費(26億12万円増)、交通安全施設整備費(7億50百万円増)、密集住宅市街地整備費(3億78百万円増)、生活幹線道路等整備費(3億49百万円増)等の増により、44億70百万円、23.7%の増となった。
- (4) 総務費は、区民事務所大規模改修費(1億25百万円減)、全庁ネットワーク基盤整備費(1億5百万円減)等の減がある一方、施設整備基金積立金(10億9百万円増)、退職金(3億92百万円増)等の増により、11億52百万円、5.8%の増となった。
- (5) 衛生費は、清掃一部事務組合分担金(80百万円減)等の減がある一方、予防接種委託料(1億22百万円増)、練馬光が丘病院整備費補助金(44百万円皆増)等の増により、33百万円、0.2%の増となった。

注: 普通会計上の支出目的別歳出は、省令の定める区分に原則として準じているため、区における歳出区分と異なっている。区的一般会計と普通会計の歳出区分は概ね以下のとおりとなる。

| (一 般 会 計) | ⇒ | (普 通 会 計) |
|-------------|---|---------------------------|
| 議 会 費 | ⇒ | 議 会 費 |
| 総 務 費 | ⇒ | 総 務 費 ・ 消 防 費 |
| 区 民 費 | ⇒ | 総 務 費 ・ 民 生 費 |
| 産 業 経 済 費 | ⇒ | 労 働 費 ・ 農 林 水 産 費 ・ 商 工 費 |
| 地 域 文 化 費 | ⇒ | 総 務 費 ・ 教 育 費 |
| 保 健 福 祉 費 | ⇒ | 民 生 費 ・ 衛 生 費 |
| 環 境 費 | ⇒ | 衛 生 費 ・ 土 木 費 |
| 都 市 整 備 費 | ⇒ | 土 木 費 ・ 消 防 費 |
| 土 木 費 | ⇒ | 総 務 費 ・ 土 木 費 |
| 教 育 費 | ⇒ | 教 育 費 |
| こ だ も 家 庭 費 | ⇒ | 民 生 費 |
| 公 債 費 | ⇒ | 公 債 費 |
| 諸 支 出 金 | ⇒ | 総 務 費 ・ 土 木 費 ・ 公 債 費 |

第4表

目的別歳出内訳

(単位:千円、%)

| | 平成30年度 | | 平成29年度 | | 対前年度比較 | |
|----------|-------------|-------|-------------|-------|------------|-------|
| | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 構成比 | 決算額 | 増減率 |
| 歳出総額 | 258,755,395 | 100.0 | 245,494,251 | 100.0 | 13,261,144 | 5.4 |
| 議会費 | 996,573 | 0.4 | 975,201 | 0.4 | 21,372 | 2.2 |
| 総務費 | 21,168,601 | 8.2 | 20,016,893 | 8.2 | 1,151,708 | 5.8 |
| 民生費 | 148,839,972 | 57.5 | 145,034,827 | 59.1 | 3,805,145 | 2.6 |
| 衛生費 | 18,662,520 | 7.2 | 18,629,693 | 7.6 | 32,827 | 0.2 |
| 労働費 | 661,226 | 0.3 | 678,834 | 0.3 | △ 17,608 | △ 2.6 |
| 農林水産費 | 458,669 | 0.2 | 438,290 | 0.2 | 20,379 | 4.6 |
| 商工費 | 1,663,138 | 0.6 | 1,736,439 | 0.7 | △ 73,301 | △ 4.2 |
| 土木費 | 23,297,043 | 9.0 | 18,827,461 | 7.7 | 4,469,582 | 23.7 |
| 消防費 | 2,039,031 | 0.8 | 1,442,772 | 0.6 | 596,259 | 41.3 |
| 教育費 | 35,673,638 | 13.8 | 32,419,829 | 13.2 | 3,253,809 | 10.0 |
| 災害復旧費 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | — |
| 公債費 | 5,294,984 | 2.0 | 5,294,012 | 2.2 | 972 | 0.0 |
| 諸支出金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | — |
| 前年度繰上充用金 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | — |

※構成比について、四捨五入をしているため、各項目を足しあげても合計額と一致しないことがある。

5 財政指標

(1) 実質収支比率

標準財政規模に対する実質収支額の割合を示す実質収支比率は 3.7%で、前年度から 1.3 ポイントの減となった。

(2) 経常収支比率

財政の弾力性を示す指標である経常収支比率は 84.3%で、前年度から 0.7 ポイントの減となった。これは、物件費、人件費、扶助費などの増により分子が 13 億 47 百万円増加したが、特別区税、財調普通交付金などの増により分母が 30 億 25 百万円増加したことによる。

(3) 公債費負担比率

公債費負担比率は 2.9%で、前年度から 0.1 ポイント減となった。

これは、分母である一般財源が 54 億 20 百万円の増となった一方、分子である公債費充当一般財源は 4 百万円の微増となったことによる。

注：標準財政規模とは、一般財源(区税、財政調整普通交付金、地方譲与税等)ベースでの地方自治体の標準的な財政規模を示すもので、平成 30 年度の練馬区の標準財政規模は、1,669 億 26 百万円である。

| | |
|-----|---------|
| 第5表 | 財政指標の推移 |
|-----|---------|

(単位: %)

| | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 実質収支比率 | 3.2 | 3.3 | 2.9 | 2.9 | 3.7 | 4.4 | 5.0 | 3.7 |
| 経常収支比率 | 89.5 | 89.8 | 86.2 | 86.1 | 82.1 | 84.9 | 85.0 | 84.3 |
| うち人件費 | 27.9 | 27.0 | 25.1 | 24.6 | 22.8 | 23.6 | 23.0 | 22.8 |
| 公債費負担比率 | 7.5 | 6.7 | 6.2 | 3.9 | 3.1 | 3.0 | 3.0 | 2.9 |

$$\text{実質収支比率} = \frac{\text{実質収支額}}{\text{標準財政規模}} \times 100(\%)$$

- ・形式収支が単なる現金の収入支出の差額を表すのに対し、実質収支額は、翌年度に繰り越すべき財源を控除した実質的な財政収支をいう。
- ・3～5%程度の範囲が適正とされている。

$$\text{経常収支比率} = \frac{\text{経常経費充当一般財源}}{\text{経常一般財源 + 減収補てん債 + 臨時財政対策債}} \times 100(\%)$$

- ・経常的な支出は経常的な収入をもって充て、その余剰が大きければそれだけ経済変動や行政需要の変化に柔軟に耐えることから、この比率は、財政構造の弾力性を示す指標として用いられている。
- 一般的には、70～80%の範囲が適正水準といわれている。

$$\text{公債費負担比率} = \frac{\text{公債費充当一般財源}}{\text{一般財源総額}} \times 100(\%)$$

- ・公債費充当一般財源が一般財源総額に対し、どの程度の割合になっているかを示す指標であり、公債費がどの程度一般財源の用途の自由度を制約しているかの目安となる。

6 今後の財政負担

(1) 地方債現在高

平成 29 年度末で、481 億 59 百万円であった地方債現在高は、平成 30 年度末において 7 億 23 百万円、1.5%増の 488 億 82 百万円となった。これは、47 億 83 百万円の元金償還を行った一方、上石神井三丁目公園整備 12 億 47 百万円、大泉東小学校校舎等改築 10 億 57 百万円等、新たに 55 億 6 百万円の起債を行ったことによる。

(2) 債務負担行為翌年度以降支出予定額

債務負担行為の翌年度以降支出予定額は、平成 30 年度末において 355 億 22 百万円であり対前年度比 36 億 4 百万円、11.3%の増となった。

(3) 積立基金現在高

平成 29 年度末で 806 億 98 百万円あった積立基金現在高は、財政調整基金 41 億 1 百万円、施設整備基金 30 億 20 百万円、医療環境整備基金 10 億 3 百万円、大江戸線延伸推進基金 7 億 5 百万円等を積み立てた一方、財政調整基金 28 億円、減債基金 85 百万円、福祉基金 20 百万円、みどりを育む基金 1 百万円を取崩した結果、平成 30 年度末では、7.7%増の 869 億 45 百万円となった。

(4) 今後の財政負担

地方債現在高に債務負担行為の翌年度以降支出予定額を加えた額から、積立基金現在高を引いた今後の財政負担額は、△25 億 41 百万円となり、前年度に比較して△308.6%、19 億 19 百万円の減となった。

| | |
|-----|-------------|
| 第6表 | 今後の財政負担等の状況 |
|-----|-------------|

(単位:千円、%)

| | | 平成30年度 | 平成29年度 | 増(△)減 | 増減率 |
|-----------------------------|-------|-------------|-------------|-------------|---------|
| 地方債現在高 | A | 48,882,405 | 48,159,359 | 723,046 | 1.5 |
| 債務負担行為翌年度以降支出予定額 | B | 35,521,500 | 31,917,124 | 3,604,376 | 11.3 |
| A + B | | 84,403,905 | 80,076,483 | 4,327,422 | 5.4 |
| 積立基金現在高 | C | 86,945,182 | 80,698,480 | 6,246,702 | 7.7 |
| 今後の財政負担 | A+B-C | △ 2,541,277 | △ 621,997 | △ 1,919,280 | △ 308.6 |
| 標準財政規模 | D | 166,926,263 | 162,554,985 | 4,371,278 | 2.7 |
| (A+B)/D×100 | | 50.6 | 49.3 | — | — |
| C/D×100 | | 52.1 | 49.6 | — | — |
| 今後の財政負担の割合 (A+B-C)/D×100 | | △ 1.5 | △ 0.4 | — | — |

(参考)

(単位:%)

| | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|--------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 標準財政規模に占める 今後の財政負担の割合 | 22.6 | 22.1 | 12.9 | 16.3 | 9.5 | 1.6 | △ 0.4 | △ 1.5 |